

地区研修・協議会報告（※報告本文中の地区役職は次年度のものです。）

全体会議及び会長・幹事部門

●片岡会長エレクト

地区の推奨事項は次の通りです。

1. クラブのビジョンと行動計画の作成

クラブ運営の継続性保持のために、3ヶ年方針と行動計画の策定を。その際は、DEI（多様性、公平さ、インクルージョン）の規範に照らして。6月末までに目標を設定して地区に報告を。

2. 危機管理（ハラスメントについて）

高潔さと高水準の倫理観を持って行動できるよう、毎年会員対象に研修の実施を。社会の常識が大きく変わったことを認識すること。（例えば、ロータリーの「ハイ喜んで！」の文化や「手に手つないで」で手をつなぐ慣例、いまだに残る男性クラブへのこだわりはハラスメントにならないのか…）

3. 会員数純増2名

クラブとして、20～40代の会員を迎え入れることができるかを考える時間を設けては。

クラブ管理運営部門

●伊藤次期クラブ奉仕委員長

この部門の出席者は、会長エレクトや次期幹事が中心でした。出席者の半数ほどが会長・幹事経験者とのことで、多くのクラブで会長・幹事職が2回目、3回目となっている現状を目の当たりにしました。

1. クラブ管理運営について

詳しくはMY ROTARYを熟読されたし、との説明でした。ロータリーに関するほぼ全ての情報はMY ROTARYに網羅されているので、時間を見つけて目を通すこと、また、メンバーに対してもMY ROTARYからの情報収集を促すことが推奨されました。

2. 規定審議会について

次回2025年の規定審議会に基づいて、必要に応じてクラブ細則の改正を。

3. テーブルディスカッション

クラブ運営に関して、各クラブの細則に沿った議論がありました。テーブルごとの報告もあり盛りだくさんでしたが、会長・幹事就任までにしっかりとクラブ定款・細則を読み込んでおくことを推奨されました。

会員維持増強部門

●一色次期会員増強委員長

地区委員会としては100名の純増を目指している（各クラブ2名の純増）とのこと。

1. 当地区の現状分析及びアンケート結果

前川忠範会員維持増強委員長よりプレゼンがありました。

2024年2月の会員数は2,530人（うち女性会員148人）。1998年6月の4,152人より1,622人減少（△39%）した。クラブ別では、60人以上のクラブが8クラブに減少、20人以下のクラブが増えて14クラブとなった。平均会員数は37.2人。

2680 地区の特徴は、女性会員が少ない（女性比率は 34 地区中 34 番目）、夜間例会が多い（68 クラブ中 13 クラブ）という結果になっている。

会員満足度調査（入会 5 年未満の会員 589 人中 223 人が回答）によると、入会して良かったことは「尊敬する多様な会員との出会い」「自己研鑽」が多い。参加したい奉仕活動としては「地域社会への奉仕」が最も多い。

2. 会員維持増強とクラブの役割

宇尾好博会員維持増強委員（元委員長）よりスピーチがありました。

クラブは組織的な運営がなされているか。委員会は上手く運営されているか。会長が役割分担を明確にすることでスムーズに捗るのではないか。メンバーは何を求めているか。クラブ運営の見直しを図るのも一つであるが、品格を落とすようなことはあってはならない。会員増強月間を 2 ヶ月に 1 回開く。年長者に座談会をして頂き、ロータリーへの理解を深める。楽しい = 学ぶ + 親睦

3. テーブルディスカッション

会員増強の根本は、会員個々のロータリアンたる誇りの確立であり、そのシンボルがバッジの着用である、との課題認識に基づいて、「メンバーがバッジを常時着用するようになるには」というテーマで意見交換しました。現にバッジを常時着用しているという会員が複数おられました。

職業奉仕部門

●北村次期職業奉仕委員長

富田博重職業奉仕委員長の委員会方針を拝聴しました。

最近のロータリーでは原理や奉仕理念についての研修機会が減っていることへの危機感を述べられ、その原因を考える重要性を「ロータリーの目的」や「決議 23-34」第 1 項を用いて話されました。ロータリー哲学は職業奉仕に由来しており、ロータリー理念を勉強する場を設けるのは当委員会の務めであるとのことでした。

それらを踏まえて、地区委員会の方針は次の通りです（原稿抜粋）。

- ① 職業奉仕の（ロータリーの）理念や原点を繰り返し学ぶ
- ② 委員個人の職業奉仕の理解度を上げ、判断力を磨く
- ③ 職業奉仕の卓話が自信を持ってできるようになる
- ④ 職業奉仕は、仕事の現場ではどんな考えで、何を行うことなのか研究する
- ⑤ クラブの職業奉仕を盛り上げるためにどんなやり方があるか研究する
- ⑥ クラブからの依頼に積極的に答える

私としては、次年度の職業奉仕委員会は定期的に職業奉仕を実践されている事例を用いた勉強会を行い、クラブの活性化につなげていきたいと考えております。

社会奉仕部門

●崎野次期社会奉仕委員長

地区委員会の方針は次の 7 項目です。

- ① 新しい傾向または問題の特定を援助する
- ② 情報を分かち合い、クラブと地元奉仕団体との間で協力できる分野を探す

- ③ 地区やゾーンの会合で、優れた社会奉仕プロジェクトの展示を実施する
- ④ クラブやグループが地区補助金プロジェクトを積極的かつ円滑に行えるよう支援する
- ⑤ 公共イメージ委員会と連携して、地区補助金プロジェクトの実施状況を見学、検証し、他のクラブへの情報発信を行う
- ⑥ 発達障害理解のための基礎と実践講座の開催および関連する活動を展開する
- ⑦ プロバスクラブとの相互理解を図るとともに活性化に取り組む

また、次の6名からプレゼンがありました。

1. 喜多美雄社会奉仕委員長

2023-24年度臨時特別補助金を使用した能登半島地震への実施報告がありました。

2. 岩井秀樹社会奉仕副委員長

ロータリーの社会奉仕の歴史的成り立ち、その概念の説明がありました。クラブの社会奉仕の取り組みについて情報を共有し、活動の輪を広げることが肝要と。

3. 小坂圭一社会奉仕副委員長

地区補助金の申請・実施・報告について説明があり、来年3月の申請締め切りに向けて、地区内全クラブからの申請を奨励されました。

4. 中井章詞環境の保護委員長

グローバル補助金の重点分野としての環境保護について説明がありました。

5. 山田 剛姫路西 RC 青少年奉仕委員長

地区補助金プロジェクト「姫路西ロータリークラブ杯ソフトボール大会」の事例報告がありました。

6. 竹田契一社会奉仕委員

子供の様々な発達障害の基礎知識について、学びの多様性における「平等と公平性」とは、とのテーマでお話がありました。

国際奉仕部門

●高田次期国際奉仕委員長

(代理出席 久保会員)

国際奉仕の理解をテーマに、次のプレゼンがありました。

1. 国際奉仕の基本概念

クラブ定款第6条、奉仕の第4部門である国際奉仕の確認。

2. RI から消えている国際奉仕という言葉

RIのウェブサイトで「国際奉仕」という言葉は探しても出てこない。その代わりに「ロータリーの7つの重点分野」が掲載されている。

3. ロータリーの重点分野

- ・平和構築と紛争予防
- ・疾病予防と治療
- ・水と衛生
- ・母子の健康
- ・基本的教育と識字率向上

- ・地域社会の経済的発展
- ・環境

青少年奉仕部門

●高田次期青少年奉仕委員長
次のプレゼンがありました。

1. 青少年奉仕委員会について
…黒田建一青少年奉仕委員長・危機管理委員長
2. インターアクトについて
…贄田 肇インターアクト小委員長
3. RYLA って何？
…北川博崇 RYLA 小委員長
4. 青少年交換について
…春木英行青少年交換小委員長
5. ローターアクトクラブの現状と問題点
…奥田 裕ローターアクト委員長
6. 学友会について
…永松潔和学友委員長

ロータリー財団部門

●永富次期財団委員長

吉岡博忠ロータリー財団委員長から、「ロータリー財団の使命」を始め概要説明があり、続いて4つの小委員会からプレゼンがありました。

1. 補助金小委員会
地区補助金プログラム、RI「財団室 NEWS」の各会員へメール送信について
2. 資金推進小委員会
寄付の推進、補助金の活用について
3. ポリオプラス小委員会
ポリオ根絶推進活動について
4. ロータリーカード推進小委員会
オリコロタリーカードの活用について

なお、次年度地区目標は次の通りです。

- ・年次基金寄付…1名あたり160ドル
- ・ポリオプラス寄付…1名あたり40ドル

米山記念奨学会部門

●永富次期財団委員長
(代理出席 神名会員)

1. 米山記念奨学事業について

米山奨学事業は、年間事業費約 13.5 億円、奨学生数年間約 900 人の民間最大級の国際奨学事業です。巣立った奨学生で作る米山学友会は、国内 33 のほかに世界各国にあり、学友からロータリー会員になった方も 292 人いるようです。

2. 寄付金について

寄付金の全国平均は、普通寄付金 4,884 円+特別寄付金 12,076 円=16,960 円です。当地区の平均は、普通寄付金 4,783 円+特別寄付金 9,311 円=14,094 円で、全国平均を下回り第 18 位。特別寄付金割合も全国平均の 47.3%に対して、当地区は 43.6%です。これを全国平均くらいに持っていきたいとのこと。

そのために「ニコニコ」に米山寄付分類を新設するなどの取り組みを考えることが推奨されました。

3. 奨学期間を振り返って

米山学友（2023 学年度奨学生） 崔 星宇さんのスピーチがありました。